

英国賦払金融におけるロンドン 手形交換所加盟銀行の進出

今 井 信 二

はじめに

- I 商業銀行と消費者金融
 - II 英国金融界におけるロンドン手形交換所加盟銀行の地位
 - III ロンドン手形交換所加盟銀行の系譜
- おわりに

は じ め に

英国賦払金融の研究にあたって、1950年代後半にはかずつの新しい事態が起こった。従来、英国における消費者信用の規制方法には、直接的方法として商務省令による賦払信用条件（頭金、返済期間等）の規制と、間接的方法として資本発行委員会 CIC（Capital Issue Committee）による賦払金融会社の資本調達審査、および政府、中央銀行の商業銀行にたいする賦払金融会社への信用供与抑制の要請の方法とがあった。¹すなわち、

第一に消費者信用の直接的規制については、英国の金融政策は頻繁にかわり、これにともなう、頭金、賦払期間等を品目毎に定める賦払信用条件の制限は、1952年2月にはじまったが、これが1958年10月にはじめて全面的に撤廃せられるまで、規制の休止、統制の復活、強化、緩和の繰り返

1 英国における消費者信用規制の経過については、拙稿「英国における消費者信用規制」『同志社商学』第13巻第3号、1961年にくわしく述べてある。

しはじつに7回の多きを数えた。この商務省令による法的規制は英国における信用規制の基本的方式であった。

第二に、間接的な信用規制方法のひとつである資本発行規制 (capital issue controls) についてみるに、もともと資本発行委員会は、1936年に海外取引諮問委員会 (Foreign Transactions Advisory Committee) として発足したもので、1946年の「借入 (統制保証) 法」 (The Borrowing [Control and Guarantees] Act) にもとづいて大蔵省は借入れと株式発行による資本の調達を統制する権能を与えられ、1947年から1959年2月までは、イングランド、ウェールズ、スコットランド内で5万磅を超える資本調達 (56年3月から58年7月までは1万磅を超えるもの) については資本発行委員会の認可を必要とした。しかるに、1959年2月4日委員会の国内借入れまたは資本調達に関する資本発行審査権限の停止が発表され、翌5日より資本発行にたいし総括的許可が与えられることとなった。かくして委員会の権限は、海外向けの発行、利潤、および積立金の資本組み入れを目的とする償還可能証券の発行に限定された。

第三にもうひとつの間接的な信用規制方法である商業銀行の賦払金融会社にたいする貸出しの抑制についてみるに、1947年以来実施されていた賦払金融会社の銀行よりの借入れにたいする制限はいったん54年9月に廃止されたが、55年2月政府は国内需要抑制のため賦払信用条件の再統制および資本発行委員会の審査厳格化をおこなうと同時に、銀行にたいし賦払金融会社よりの借入れ申込みの審査を厳格にし、貸出しを抑制するよう要請した。しかし、58年7月4日銀行信用にたいするすべての制限は完全に解かれた。

最後に、英国の賦払金融の歴史は古いが、賦払信用に関する統計が整備されてきたのは1955年からで、57年7月以降月々の賦払信用残高が発表されている。

I 商業銀行と消費者金融

前述のように1958年7月政府による政策的信用規制がひとまず解除されたことを契機として、かねてより賦払金融の成長性に着目していた商業銀行は積極的に消費者金融の分野に進出し、直接的には自行預金者を対象とする個人貸付制度 (Personal Loan) の実施、また間接的には賦払金融会社への資本参加を行なうにいたった。²

個人貸付制度はいちはやく Barclays 銀行が58年8月29日、ついで Midland 銀行、Westminster 銀行、District 銀行が9月1日より実施し、ここにいわゆる5大銀行中3行までも賦払金融の分野に直接進出するにいたった。また商業銀行と金融会社との資本提携は、58年7月24日 Barclays 銀行と英国最大の月賦金融会社である United Dominions Trust Ltd.; 7月30日 Martins 銀行、Westminster 銀行と英国第二の月賦金融会社である Mercantile Credit Co. Ltd.; また7月中に National Provincial 銀行と North Central Wagon & Finance Co. Ltd.; Midland 銀行はその関係会社である Clydesdale & North of Scotland 銀行と共同で Forward Trust Ltd.; 8月には Lloyds 銀行は Bowmaker Ltd.; さらに Glyn, Mills & Co., William Deacon's, Royal Bank of Scotland の3銀行と British Wagon Co. Ltd.; District 銀行と Astley Industrial Trust Ltd.; National 銀行と Bowmaker (Ireland) の資本提携が行なわれた。³

このように僅か1カ月ほどの間に、英国5大銀行 (Barclays, Midland, Lloyds, Westminster, National Provincial) をはじめとするロンドン手

2 拙稿「英国賦払金融における銀行と金融会社」『産業経理』第25巻第1号に個人貸付制度の明細を述べている。

3 Ralph Harris, Margot Naylor, Arthur Seldon: *Hire Purchase in a Free Society*, 3rd ed. 1961, pp. 44~45.

形交換所加盟銀行 (London Clearing Banks) 11行中10行が主要金融会社と提携を発表した。もっとも、残る1行である Coutts & Co. は National Provincial 銀行の子会社である。

商業銀行と金融会社の提携状況およびその資本参加の割合は次表のとおりである。これは、金融会社の賦払信用残高は1958年の貸借対照表による

英国賦払金融会社と銀行の提携状況

銀行	提携金融会社		
	賦払金融会社	賦払信用残高 百万磅	銀行による資本持分 %
<u>ロンドン手形交換所加盟銀行</u>			
Barclays	United Dominions Trust Ltd.	81.9	22.5
District	Astley Industrial Trust Ltd.	5.2	33.3
Glyn, Mills & Co.	British Wagon Co. Ltd.	16.1	11.0
Lloyds	1. Bowmaker Ltd.	22.4	25.0
	同社は Midland Counties Motor Finance Co. Ltd. を子会社として いる	5.0	—
	2. Lloyds & Scottish Finance Co. Ltd.	—	50.0
	同社は Scottish Midland Guarantee Trust Ltd.	17.6	—
	Olds Discount Co. Ltd. (同社は The Industrial Banking Corp. Ltd. と提携) を子会社としている	24.1	—
		*	25.0
Martins	Mercantile Credit Co. Ltd.	26.1	20.2
	同社は Mutual Finance Co. Ltd. を子会社としている	5.6	—
Midland	Forward Trust Ltd.	6.9	60.0
National	St. Margaret's Trust Ltd.	0.8	33.3
National Provincial	North Central Wagon & Finance Co. Ltd.	29.0	100.0
Westminster	Mercantile Credit Co. Ltd.	26.1	20.2
	同社は Mutual Finance Co. Ltd. を子会社としている	5.6	—
Williams Deacon's	British Wagon Co. Ltd.	16.1	11.0

4 Neil Runcie, U. K. Finance Companies: A Study of Profits, 1949~1958, *The Bankers' Magazine*, Sept., 1959. p. 199.

スコットランド系商業銀行			
Bank of Scotland	North West Securities Ltd.	1.4	100.0
British Linen	United Dominions Trust Ltd.	81.9	2.5
Clydesdale & North	Forward Trust Ltd.	6.9	40.0
National Commercial	Lloyds & Scottish Finance Co. Ltd.	69.1	50.0
Royal Bank	British Wagon Co. Ltd.	16.1	18.0
ロンドン マーチャント バンク			
Guinness, Mahon & Co.	The Industrial Banking Corp. Ltd.	*	25.0
Hambros	1. Belmont Industrial Finance	4.5	10.0
	2. Western Credit Ltd.	2.5	15.0
S. Japhet & Co.	Charterhouse Credit Co. Ltd.	1.3	*
Samuel Montagu & Co.	The Industrial Banking Corp. Ltd.	*	25.0
S. G. Warburg & Co.	Wagon Finance Corp. Ltd.	6.7	*
そ の 他			
Ionian Bank	Goulston Discount	0.5	*

もので (North West Securities Ltd.; Belmont Industrial Finance の賦払信用残高は、1959年の Investors' Chronicle の報告による)、未経過利益にたいする引当て分を含み、*印は金額または割合の僅少なものである。⁵

この表によれば、1銀行から100%資本参加をうけている金融会社は、National Provincial Bank による North Central Wagon & Finance Co. Ltd.; Bank of Scotland による North West Securities Ltd. である。

つぎにふたつ以上の銀行と提携している金融会社としては、

Barclays Bank (22.5%) と British Linen Bank (2.5%) は United Dominions Trust Ltd. にたいし25%の資本参加。

Martins Bank (20.2%) と Westminster Bank (20.2%)は Mercantile

5 金融会社の賦払信用残高および利益にたいする未経過利益の関係については、拙稿「英国金融会社の未経過利益および利益率」『同志社商学』第15巻第3・4号、1963年に述べている。

Credit Co. Ltd. にたいし40.4%の資本参加。

Glyn, Mills & Co. (11%), Williams Deacon's Bank (11%) および Royal Bank of Scotland (18%) は, British Wagon Co. Ltd. にたいし40%の資本参加。

Midland Bank (60%) と Clydesdale & North of Scotland Bank (40%) は Forward Trust Ltd. にたいし100%の資本参加。

Guinness, Mahon & Co. (25%), Samuel Montagu & Co. (25%) および Olds Discount Co. Ltd. (25%) は, Industrial Banking Corp. Ltd. にたいし75%の資本参加。なお, Olds Discount Co. Ltd. は, Lloyds & Scottish Finance Co. Ltd. (これはまた Lloyds Bank より50%の出資をうけている)の子会社である。

さらに, 金融会社が他の金融会社の資本を全額所有するものは, Bowmaker Ltd. と Midland Counties Motor Finance Co. Ltd.; Lloyds & Scottish Finance Co. Ltd. と Scottish Midland Guarantee Trust Ltd. および Olds Discount Co. Ltd.; Mercantile Credit Co. Ltd. と Mutual Finance Co. Ltd. であって, 子会社の賦払信用残高は親会社のそれには含まれていない。

II 英国金融界におけるロンドン

手形交換所加盟銀行の地位

英国の商業銀行は普通イングランド・ウェールズ系(ロンドン手形交換所加盟11行), スコットランド系(5行), 北アイルランド系(8行)の3グループに大別される。しかし, その中軸をなすものはロンドン手形交換所加盟銀行で, その資金量は全銀行のおよそ9割を占めている。しかもスコットランド系銀行および北アイルランド系銀行の大半は, ロンドン手形交換所加盟銀行, なかんずく5大銀行の資本参加を受けて系列下におかれ

ている。これについて、ラドクリフ委員会報告はつぎのように述べている。⁶

『イングランドとウェールズとの国内銀行業務のほとんどすべては、ロンドンの手形交換所加盟銀行たる11の銀行の手に握られている。……………(126)』、『11行の中で、パークレイス、ロイズ、ミッドランド、ナショナル・プロヴィンシアル、ウェストミンスター⁶の5行は「ビッグ・ファイブ」として知られている。その資金量は、全体の7分の6を占め、その店舗網は全国に亘っている。ディストリクトとマーチンス（併せて全体の8%を占める）は、南部に多少稀薄であるが、やはり全国に店舗を持つ。ウィリアム・ディーコンスとグリーンミルスは共通の所有系統に属する（ロイヤル・バンク・オブ・スコットランド系）。グリーンミルスは営業区域をロンドンに限っており、一方ウィリアム・ディーコンスは次第に他の地方に支店を出しているが、主としてランカシャーの銀行である。クーツはロンドンにあり、ナショナル・プロヴィンシアルが所有している。ナショナル・バンクは主としてアイルランドの銀行である。しかし、多数の支店をロンドン地域やイングランドおよびウェールズの他の大きな工業および商業中心地にもっている。最初の7つと最後のものは、多勢の株主からなる株式公開会社（public companies）である。11行全部が形式上その業務を所有者のために行うという意味において本質的に営利企業である。

この私的営利性（commercial interest）は、しばしば、一層広い公的利益のために和らげられた。(127)』と。

既述のように英国における消費者信用の規制は、政府による賦払信用条件の規制と、資本発行委員会による金融会社の資金調達の審査あるいは政府、中央銀行が商業銀行に賦払信用供与の削減を要請する方法によって行なわれてきた。これらの制限が1958年夏から秋にかけて撤廃あるいは緩和

6 *Report of the Committee on the Working of the Monetary System*, 1957 pp. 42~43. 大蔵省金融問題研究会訳『ラドクリフ委員会報告』大蔵省印刷局、1959年、32ページ。

されたのを機会に、大銀行筋は自ら個人貸付制度をはじめ、あるいは金融会社と資本提携を行なうなど直接的、間接的な賦払金融に積極的に乗り出した。1958年12月末日のロンドン手形交換所加盟銀行11行の負債および資産の集計はつぎのとおりである。⁷

ロンドン手形交換所加盟銀行負債および資産（1958年12月31日）

	100万磅	対総預金比
負 債		
総預金（当座勘定、預金勘定、その他）	7,199	100.0
当座勘定	4,227	58.7
預金勘定	2,486	34.5
その他*	486	6.8
払込資本金および積立金	212	2.9
負 債 合 計**	7,411	
資 産		
手許現金およびイングランド銀行預け金（現金）	586	8.1
手許現金	374	5.2
イングランド銀行預け金	213	3.0
コールおよび短期貸	587	8.2
割引手形	1,320	18.3
イギリス大蔵省証券	1,185	16.5
その他の手形	135	1.9
流動資産合計	2,493	34.6
他銀行に対する残高および未達項目	581	8.1
投資（帳簿価額）	2,102	29.2
最終満期日まで5年以内の金縁証券	985	13.7
その他の金縁証券	1,009	14.0
その他の投資	108	1.5
他の勘定による顧客への融資	2,126	29.5
系列銀行および従属会社（「貿易」）投資	42	0.6
銀行建物	67	0.9
資 産 合 計	7,411	

7 Report of the Committee on the Working of the Monetary System, 1957.
p. 45. [同訳書 34ページ]

* 未達勘定、未払勘定および銀行の内部基金

** 偶発債務（および対照資産）を除く

引受 32百万磅、

裏書、貸出約定、その他の約定 483百万

以下 The Bankers' Almanac And Year Book 1958-59, 1963-64 に
より、1958年および62年あるいは63年のロンドン手形交換所加盟銀行11行
の系譜を瞥見することとする。

Ⅲ ロンドン手形交換所加盟銀行の系譜

1 Barclays Bank Limited

Barclays 銀行はこんにち預金高において英国商業銀行中第1位であり、
その設立は古く1694年以前に個人銀行 (private bank) として発足した。
個人銀行について R. S. セイヤーズは、『これら初期の個人銀行は一般に、
商人、製造業者、鉱山業者などの付随的な業務として生まれた。ときには
本業が続いている間に、ほとんど知らないうちに銀行業務が起きている
ようなこともあるし、新しい銀行の開始日をはっきり確定することのでき
る場合もある。……18世紀末の20年間には全国ほとんどの⁸いたるところに、
おびただしい数の個人銀行が生まれた。』と述べている。

19世紀の後半を通じて個人銀行相互の合併が続いたが、その多くは株式
銀行の設立または拡大のためであった。Barclays 銀行は1896年に法人組
織となり、1917年2月上記の名称に改められた。1958年の同行の授權資本
は3000万磅 (1株1磅の普通株2900万株、1株1磅の資格株100万株) で、
発行済資本は2296万4703磅 (普通株2224万7653磅、資格株71万7050磅) で
あり、1958年6月30日付の貸借対照表はつぎのごとくである。なお、同年
12月31日の純利益は334万5411磅、繰越利益は86万7160磅。

8 R. S. Sayers, *Lloyds Bank in the History of English Banking*, 1st edition,
1957. [東海銀行調査部訳『ロイズ銀行——イギリス銀行業の発展』東洋経済新報
社、1963年、2~3ページ]

貸借対照表 (1958年6月30日)

負 債		資 産	
払込資本金	22,964,703 磅	手許現金および イングランド銀行預金	124,509,732 磅
積立金	20,000,000	他の英国銀行に対する 預金	66,347,721
当座勘定、預金勘定 およびその他の勘定 (損益勘定残高を含む)	1,465,110,632	コールマネーおよび 短期貸	87,625,000
*有価証券その他の 担保付引受	41,622,147	割引手形	266,387,825
		投 資—	
		英国政府保証付 投資証券	525,983,362
		従属会社投資	14,638,284
		その他の投資	4,417,891
		貸 出	403,576,228
		*引 受	41,622,147
		不動産	14,589,292
計	1,549,697,482	計	1,549,697,482

* 対照勘定である。

1963年6月30日付の貸借対照表によれば、授權資本は9000万磅。その内訳は1株1磅の普通株で8900万磅、1株1磅の資格株で100万磅である。発行および払込済資本金は、普通株6307万2102磅、資格株87万5000磅、計6394万7102磅である。積立金は2898万7983磅、純利益は601万3775磅、繰越利益は212万5193磅であった。

2 District Bank Limited

1829年創立。1880年に株式会社として登録し、1924年2月上記の名称に変更。1958年の授權資本1056万428磅で、全額払込済資本金は1磅株式398万8530株(398万8530磅)。1958年8月 Astley Industrial Trust の5志普通株61万株を買い入れ、同社に3分の1の資本参加。1958年12月末日の純利益は73万8197磅、積立金400万磅。〔1962年 National Provincial Bank Limited が株式交換により、同行の発行済資本全額を取得。〕1962年12月31日の発行および払込済資本金は600万磅、積立金500万磅、純利益

は118万1277磅であった。

3 Glyn, Mills & Co.

1753年創立。1885年1月14日無限責任会社として登録。1924年5月上記名称に変更。1939年8月 Royal Bank of Scotland の従属会社となる。1954年9月、積立金の資本組み入れにより発行済資本金は106万磅から120万磅に増加、また積立金は120万磅。1958年8月 British Wagon Co. Ltd. の株式買入れにより資本参加。

1958年(1963年)6月30日の払込済資本金は120万磅(200万磅)、積立金は120万磅(200万磅)。

4 Lloyds Bank Limited

1765年 Taylors & Lloyds として創立。1865年 J. L. Moilliet & Sons と合併して Joint Stock Company となり、Lloyds Banking Company Ltd. と称号を変更し、1889年現在の商号となる。

同行は National Commercial Bank of Scotland Ltd. とともに、ローデシア、南アフリカ、西印度諸島、ヨーロッパで賦払購入業務(hire purchase)に関心をもっている Lloyds & Scottish Finance Ltd. の資本の50%をそれぞれ所有している。また Lloyds Bank (Foreign) Ltd. の全資本を所有している。

1958年8月、同行は Bowmakers Ltd. の1株5志の普通株200万株を29志6片替で取得した。これは Bowmaker の普通株のほぼ4分の1に相当する。同行の1958年末(1962年末)の純利益は272万7535磅(481万7350磅)、1958年(1962年)6月末日の払込済資本金は1856万5070磅(5116万9973磅)、積立金は1601万7892磅(2843万6665磅)であった。

5 Martins Bank Limited

1831年創立。1882年株式会社として登録され、1928年に上記名称に改められた。1958年7月1日、Lewis's Bank Ltd. の株式資本(share capi-

tal) の全部を取得。同年8月、同行は Westminster Bank とともに、Mercantile Credit Co. が増資する場合、両行各自が増加普通株の20%を取得するという条件で、新普通株の買入れを協定し、結局20.2%ずつ取得した。1958年(1962年)6月末日の払込済資本金は527万6425磅(989万3298磅)、積立金は550万磅(681万9106磅)。1958年(1962年)12月末日の純利益は105万805磅(143万5151磅)。

6 Midland Bank Limited

1836年創立。1958年(1962年)6月末日の払込済資本金は1615万5709磅(4027万8283磅)、資本準備金および利益準備金は1615万5709磅(3000万磅)、従属銀行、従属会社への投資は900万7356磅(1170万682磅)。

1958年8月、同行は Clydesdale & North of Scotland Bank Ltd. と共同で、Forward Trust Ltd. の1株10志の普通株75万株を70志替、6%の優先株、1株1磅、10万株を20志替で買入れの申し出を行ない、結局同行は Forward Trust Ltd. の資本の60%、C. N. S. Bank は40%と両者で発行済株式全部を取得した。1958年(1962年)12月末日の純利益は293万4039磅(498万3949磅)。

7 National Bank Limited.

1835年 National Bank of Ireland として創立。1856年1月1日上記名称に変更し、1882年1月2日株式会社として登録。1958年12月末日の払込済資本金は150万磅、積立金は150万磅。純利益は26万8757磅。同年8月 Bowmaker (Ireland) Ltd. に45%の資本参加。

1962年12月末日の授權資本は1株1磅の株式750万株(750万磅)、発行および払込済資本金は200万株全額払込(200万磅)、積立金は254万1758磅(株式発行差金104万1758磅を含む)、純利益は30万9820磅。

8 National Provincial Bank Limited

1833年 National Provincial Bank of England として創立。1880年

株式会社として登録。1918年 National Provincial and Union Bank of England Ltd. と改称し、1924年現在の商号に改めた。1958年6月末日の払込済資本金は1051万3162磅、積立金は1321万6270磅（株式発行差金11万1220磅を含む）、同年12月末日の純利益は223万6426磅。

1958年8月 North Central Wagon & Finance Co. Ltd. の普通株を1株90志で買入れを申し出で、全株式取得。〔また Isle of Man Bank Ltd. を1961年、District Bank Ltd. を1962年に従属会社とした。〕1962年6月末日の払込済資本金は2403万84磅、積立金は1771万6270磅（株式発行差金11万1220磅を含む）。同年12月末日の純利益は463万1800磅。

9 Westminster Bank Limited

1834年創立。1923年3月1日上記名称となる。1958年8月 Martins Bank Ltd. とともに Mercantile Credit Co., Ltd. の普通株をおのおの20.2%ずつ取得。

1958年6月末日の払込済資本金は1639万1147磅、積立金は1180万磅（株式発行差金を含む）。同年12月末日の純利益は206万9747磅。

1962年6月末日の払込済資本金は2346万2137磅、積立金は1180万磅（株式発行差金を含む）。同年12月末日の純利益は385万1836磅。

10 Williams Deacon's Bank Limited

1836年 Manchester and Salford Bank として創立され、1881年7月1日株式会社として登録。1890年4月16日、Messrs. Williams Deacon & Co. (1771年創立) と合同し、名称を Williams Deacon and Manchester and Salford Bank Ltd. と変更し、登録事務所をロンドンに移し、1901年上記商号に改めた。1930年全株式は Royal Bank of Scotland の株式と交換され、1953年に登録事務所をマンチェスターに移した。1958年8月 Royal Bank of Scotland (18%), Glyn, Mills & Co. (11%) とともに、British Wagon Co. Ltd. の株式を取得した (11%)。

1958年(1962年)6月末日の払込済資本金は227万5000磅(300万磅)。積立金は227万5000 磅 (300万磅)。1958年(1962年)12月末日の純利益は 47万4334 磅 (73万6400磅)。

11 Coutts & Co.

1692年頃 John Campbell によって創立され、無限責任の joint stock company として登録され、1920年に National Provincial Bank の従属会社となった。

1958年(1962年)6月末日の払込済資本金は100万磅 (100万磅)、積立金は100万磅 (100万磅)。投資は1058万2380磅 (787万5988磅)。

1958年(1962年)12月末日の純利益は16万7836磅 (19万1550磅)。

お わ り に

以上においてわれわれは、ロンドン手形交換所加盟銀行11行の系譜を賦払金融に乗り出した1958年に焦点をあわせて概観してきた。その後大体各銀行とも増資を繰り返してきた。ロンドン手形交換所加盟銀行11行のうち上位6行(これはとりもなおさず英国全商業銀行の順位であるが)の1967年末の資本金、純益(税引)、および預金高(67年12月13日現在)はつぎのごとくである。⁹

銀 行 名	資 本 金	純 益 (税引)	預 金 高
	千磅	百万磅	百万磅
パークレイス	70,243	14.2	2,469.0
ミッドランド	64,697	11.7	2,193.3
ロ イ ズ	64,883	10.8	1,871.3
ウエストミンスター	39,372	9.1	1,374.4
ナショナル・プロヴィンシアル	38,713	11.0	1,152.0
マーチンス	14,840	2.9	495.5

⁹ 三菱銀行調査部「英国商業銀行合併の実態」『調査』第165号、1968年7月、22ページより作成。

英国商業銀行の歴史は5大銀行の例にみられるように合併の歴史であった。1918年を境として、その後合併はとだえていたが、半世紀を経たこんにち、英国金融界に再編成が行なわれはじめた。すなわち、1968年1月26日 Westminster 銀行 (英国第4位) と National Provincial 銀行 (同第5位)、2月7日スコットランド系の National Commercial Bank of Scotland と Royal Bank of Scotland、7月25日 Barclays 銀行 (英国第1位) と Martins 銀行 (同第6位) の合併の発表が行なわれ、これら大銀行による金融市場支配度は一段と強まっていくということは疑いのないところであろう。

(1968. 8. 21)